

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490100122		
法人名	医療法人進修会		
事業所名	グループホームおおつか(北)		
所在地	大分県大分市住吉町1丁目2番16号		
自己評価作成日	平成22年12月20日	評価結果市町村受理日	平成23年3月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ap.oita-kaigo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4490100122&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成23年1月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

居心地の良い空間を提供し、安心して暮らしていけるよう個別ケアに取り組み、穏やかな生活を送っていただく。同施設内のほかの部署のイベントや行事の参加をし、見る、聞く、作る楽しみを味わっていただき、気分転換を図り、喜びを持っていただく。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市内の中心地にあり、ちょっとした買い物や散歩に便利である。また、訪れやすい場所なので家族の訪問も多い。
24時間の医療連携ができており、体調の急な変化にもすぐ訪問看護が対応してくれる。
居間のスペースの取り方に工夫があり、人と距離を保って落ち着いて過ごせる空間になっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	市内の中心地に	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティングや担当者会議では、理念を基に一人ひとり個別のケアが出来るように検討し、職員全体で統一した意識付けを図り、その人らしく暮らしていただけるよう、日々取り組んでいる。	職員が話し合い、作り上げた「語りかけ 問いかけ 寄りそう」ケアを実践している。ミーティングではその人らしい暮らしができていないかを検証し、職員間で理念を共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事の情報を集め、祭りや運動会に参加したり、近隣の保育園の子供たちと定期的に交流を行っている。	事業所が地域の一員として祭りなどの行事に参加している。また、事業所の行事を広く呼びかけて、地域住民に来てもらっている。月に一度、保育園児の訪問もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の祭りへの参加、見学を呼びかけ、認知症の方へ接する機会を持っていただき、認知症の理解を深めていただくよう、取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の現状を報告するとともに、利用者やその家族にも参加していただき、幅広い意見を取り入れるよう取り組んでいる。	年度初めに年間計画をつくり、2ヶ月に一度、実施し、本人や家族、地域住民、行政の参加がある。もらった意見をケアに反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村の担当者と日ごろから連絡をとり、実情を伝えるとともに、助言・指導をいただき、ケアに反映させるよう取り組んでいる。	市町村の担当者と日ごろから密に連絡を取り、助言をもとに調査を行ったりして、ケアに反映させ、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常に玄関、通用口ともに開放している。日々の申し送りやミーティングの中でも言葉による抑圧などないか確認しあっている。	職員は、身体拘束の弊害をよく理解し、施錠や言葉による制約などをしないケアを実践している。気がついたことがあればミーティングで話し合いをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や研修会で、虐待について学び、常に意識を持って業務に取り組んでいる。		

事業者名:グループホームおおつか(北)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内での勉強会で取り上げ、職員全体で理解を深め、活用できるように体制を整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約・改定の際には、十分な説明を行い理解、納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の表情、言葉から、その思いを察する努力を行い、ケアに反映させている。家族会を実施することにより、家族の思いを表す機会を設けている。	年に1回、家族会を開き、アンケートなどをもって意見をもらっている。「もっとリハビリをして欲しい」、「掃除を丁寧にして欲しい」、などの意見を反映させて、努力をしている。広報誌にもアンケート結果を載せている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日ごろからコミュニケーションをとるよう努め、信頼関係を深めるよう努力している。	職員間のコミュニケーションを大切にし、意見があれば管理者が法人に相談して、取り入れている。相互に信頼関係がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は常に職員個々の能力を評価し、各自が向上心を持って働けるよう、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修、セミナーへの積極的な参加を促し、研修後の勉強会での発言などにより全職員の質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宅老所・グループホーム大分県連絡会に加入し主催の勉強会、研修などに参加しサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で本人の生活状況や精神状態を把握するよう努め、本人が求めていることや不安を理解するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ゆっくり話を聞き、ご家族が求めているものを理解し、受け止める努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思い、状況を確認し改善に向けた支援を提供し、サービスにつなげていくよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側、される側にとらわれず、ともに時間を過ごし、共感したり学ばせていただきながら、良い関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いに寄り添いながら、言葉や行動を家族と共有できるように、連携をとり支援を行っていくよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	継続的な交流が出来るように、友達や知人の来訪をお願いし、個人の生活習慣を尊重している。	散歩で家の近くに行ったり、仲の良かった人に遊びに来てもらえるように家族に伝えてもらうなど、働きかけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係がうまくいくように職員が調整役となり個別に支援するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、継続的な関わりを持てるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に心を汲み取り、本人の希望、意向を把握し、本人の希望を家族を交えて検討するよう努めている。	「認知症の人のためのケアマネジメント・センター方式」のフェースシートを使用し、利用者がどのように考えているのか、何を希望しているかを、常に推し量るように努力している。その内容が書類にしっかりと記入されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族とコミュニケーションを多くとることにより、生活歴やなじみの暮らし方を把握しサービスに反映させるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活のリズムを把握する努力をし、心身の状態やできる事、したいことを汲み取り全体的な把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成時や面会時に本人や家族の意向を聞き反映させるようにしている。ケア会議などで職員全員で意見交換をし、現状に即した介護計画を作成している。	本人や家族の意向を聞き、目標を決めている。ケア会議では、職員全員で意見を交換し、見直す必要性を含めた話し合いを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルを用意し、日々の暮らしの様子や本人の言葉、行動などを記録し、職員間で情報を共有し、サービスに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人家族の状況に応じて、通院や入院時の買い物など、柔軟に対応し、個々の満足感を高めるよう努力している。		

事業者名:グループホームおおつか(北)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	デイサービスで実施されるボランティアの催し物に参加できるよう支援をしたり、本人の希望に応じて訪問理美容サービスを利用してもらっている。定期的にある園児との交流会は大変楽しみにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医のほか、家族や本人の意向に沿い、適切な医療を受けられるよう支援している。	希望の医療機関に受診することができ、家族や職員が同行して、かかりつけ医との関係を築いている。併設の病院では24時間体制で診てもらうことができる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの契約連携により日常の健康管理や医療面で相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には医療関係者と情報交換や相談を密にするよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族や本人の意向を汲み取り、医師、職員が連携をとりチームとして支援できるよう努めている。	まだ実績は無いが、本人や家族の希望があれば看取りをする方針である。職員間での確認もあり、家族とも折にふれて話をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て、救急手当や蘇生法の研修や初期対応の訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、避難訓練、消火器の取り扱いなどの訓練を定期的に行っている。	年2回、消防署の協力を得て避難訓練や消火器の訓練を行っている。今年度から自治会の協力を得て住民の参加もある。備蓄をグループホーム独自で準備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティングやケア会議の際、職員の意識向上を図るため、利用者の尊厳やプライバシーを損なわない対応や声かけを共有するよう指導し実践している。	プライバシー保護や接遇・適切な声かけなどについて研修している。その人の嫌がることなどを把握して共有し、さりげない誘導などで尊厳を大切にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に耳を傾け、本人の意思を尊重し、その人らしい生活が送れるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調や生活リズム、希望を汲み取り個別な対応に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着る服を自分で選んでいただいたり、理美容は本人の意向を尊重した支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好みや状態を把握し、食器も個人の使い慣れたものを使用している。準備や後片付けも一緒に行い生活を共有している。	好みや食べたい物を聞いて、外食や出前なども取り入れている。月に一度は皆で買い物に行き調理したりする。注ぎ分けなどをお願いし、楽しい食事風景をつくっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	常に食事、水分摂取量を把握しチェック表に記入することにより、職員全体が情報を共有し、個々に応じた支援ができるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状態と能力に応じた口腔ケアを毎食後実施している。		

事業者名:グループホームおおつか(北)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	習慣や行動を把握し、声かけ、誘導を個人にあった方法で行い、スムーズな排泄ができるよう支援している。	パターン表によるトイレ誘導を行い、自立に向けた排泄の支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分不足や運動不足にならないよう個々の状態に合わせた支援を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの体調や希望に合わせて入浴を楽しめるよう支援している。	週に2~3回の入浴だが、希望がある場合は毎日入ることができ、夜間も対応できる。仲のよい人同士と一緒にすることなどもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や体調に応じてゆっくり休息がとれるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの使用する薬の内容を職員全体が把握、理解するよう努めている。また訪問看護師と連携をとり、症状や変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を活かした家事などの役割を持っていただき、豊かな生活が送れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望、体調、気候に応じて外出支援をしている。	ビルの3階なので出来るだけ外出を心がけており、レクリエーションの他、買い物や散歩などを誘いかけている。ゴミ捨てや郵便物を取りに行く際などにも声をかけ、一緒に行っている。	

事業者名:グループホームおおつか(北)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得て、小銭を持っている人もいる。家族よりお金を預かり、事業所が管理している人でも、買い物の際お金を手渡しし、ご自分で払っていただけるよう工夫をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたり、ご家族からの電話の際に話ができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気作りができるように生活感や季節感を取り入れた環境づくりにつとめている。	大きな窓から空や町の様子を眺めることができ、明るさや温度にも気を配っている。また、イスやソファの向きを工夫することにより、他者とのほどよい距離が取れて落ち着いて過ごすことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人で過ごしたり、仲の良い利用者や、思い思いに過ごせるように、環境の工夫を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談し、家から持参したものに囲まれ、本人の作ったもの、写真などを飾り居心地のよい環境づくりに努めている。	こたつのある居室や、ピアノやテーブルを設置した部屋など、個人の好みを重視した部屋作りをしている。家族の写真や思い出の品などを飾っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存機能を活かし、安全な生活が送れるよう支援している。		